



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月9日

上場会社名 株式会社meito 上場取引所 東・名
コード番号 2207 URL <https://www.meito-abc.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三矢 益夫
問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 栗本 正直 (TEL) 052-521-7111
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	22,126	3.9	1,272	1.5	2,767	10.4	2,922	△34.0
2025年3月期第3四半期	21,299	16.8	1,253	384.5	2,506	85.8	4,430	362.5

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 8,162百万円(52.2%) 2025年3月期第3四半期 5,362百万円(13.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	173.15	—
2025年3月期第3四半期	261.81	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	100,238	61,260	61.1
2025年3月期	83,325	54,912	65.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 61,260百万円 2025年3月期 54,912百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	17.00	—	18.00	35.00
2026年3月期	—	20.00	—		
2026年3月期(予想)				35.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	29,500	5.1	1,600	13.8	2,800	4.8	2,800	△40.7 165.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年3月期3Q	17,289,308株	2025年3月期	17,289,308株
2026年3月期3Q	864,874株	2025年3月期	361,525株
2026年3月期3Q	16,878,493株	2025年3月期3Q	16,923,450株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(当社の商号変更について)

2025年9月1日付で、当社の商号を「名糖産業株式会社」から「株式会社meito」に変更いたしました。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果に支えられ、緩やかな回復が続きました。一方で、米国の通商政策の影響による外需の不透明感や、物価上昇に伴う消費者マインドの弱さなどが国内景気の下押しリスクとなっており、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましては、観光需要やインバウンドの回復を背景に土産菓子などが堅調に推移しました。一方で、原材料価格の高止まりや人件費・物流費の上昇などに起因する各種商品の値上げが進み、消費者の節約志向の強まりから家庭用需要は伸び悩むなど、企業にとって厳しい経営環境が続いております。

こうした情勢のもと当社グループは、中期経営計画「MEITO CHALLENGE 2026」に基づき、食品事業では中核ブランドの市場浸透と商品価値の訴求を、化成品事業では高付加価値商品のグローバル展開を推進し、収益性の向上と事業基盤の強化に努めてまいりました。また、2025年2月に迎えた創立80周年を機に、多角化した当社グループの存在意義をさらに高めるため、商号を「株式会社meito」に変更いたしました（変更日：2025年9月1日）。長きにわたりお客様に親しまれてきたブランド「meito」と商号を統一することで、国内外への発展を目指し、さらなるブランド認知と企業価値の向上を図ってまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて3.9%増の22,126百万円となりました。

営業利益につきましては、売上高の増加や商品の内容量変更・価格改定により売上原価率が改善しましたが、商号変更を記念したキャンペーンの実施による一時的な費用の発生などにより、前年同期と比べて1.5%増の1,272百万円となりました。また、経常利益は、営業利益の改善に加えて受取配当金や投資有価証券売却益が増加したことなどにより、前年同期と比べて10.4%増の2,767百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、特別利益に投資有価証券売却益1,449百万円などを計上しました結果、前年同期と比べて34.0%減の2,922百万円となりました。なお、前年同期は、特別利益に投資有価証券売却益3,363百万円などを計上しておりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

食品事業

各部門の売上高は、次のとおりであります。

(百万円)

	当第3四半期連結 累計期間 (2025年4月1日から 2025年12月31日まで)	前第3四半期連結 累計期間 (2024年4月1日から 2024年12月31日まで)	対前第3四半期連結 累計期間増減率	対前第3四半期連結 累計期間増減額
菓子	14,598	14,368	1.6%	229
粉末飲料	2,308	1,990	16.0%	318
冷菓	1,941	1,920	1.1%	20
その他	513	335	53.1%	178
食品事業計	19,361	18,613	4.0%	747

2025年9月1日より「株式会社meito」に商号変更するにあたり、新社名とブランドの認知向上を図るため、俳優・武井 咲さんを起用した企業CMを全国で放映しております。また、「アルファベットチョコレート」の魅力を発信するポップアップイベント「iのあるアルファベットチョコレート」を開催するなど新たな価値の創造を目指す取り組みを行っております。その結果、主力の菓子部門につきましては、前年同期を上回る結果となりました。チョコレート類は、主力商品のファミリーサイズ（大袋）よりも内容量の多い「パーティーパック」などの売上が伸び増収となりました。キャンディ類は、自社商品・受託商品ともに売上が落ち込み減収となりました。そのほか、連結子会社では、株式会社エースペーカーは、「凍らせて食べるシャーベット」シリーズが好調なゼリー類の売上が伸長し増収となりました。また、株式会社おいもやも芋菓子の売上が増え、増収を確保しました。

粉末飲料部門につきましては、人気キャラクター「ムーミン」とのコラボによるプレゼントキャンペーンをはじめ、各種販売促進活動を展開したことにより、ココア類などの売上が拡大し増収となりました。

また、冷菓部門につきましては、記録的猛暑や残暑の長期化もあり増収となりました。

その他につきましては、連結子会社が1社加わったこともあり増収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前年同期に比べ4.0%増の19,361百万円となりました。営業利益につきましては、過年度より数回にわたって実施した商品の内容量変更・価格改定などにより売上原価率が改善し前年同期に比べ29.6%増の1,718百万円となりました。

化成品事業

各部門の売上高は、次のとおりであります。

(百万円)

	当第3四半期連結 累計期間 (2025年4月1日から 2025年12月31日まで)	前第3四半期連結 累計期間 (2024年4月1日から 2024年12月31日まで)	対前第3四半期連結 累計期間増減率	対前第3四半期連結 累計期間増減額
酵素	1,423	1,373	3.6%	49
薬品	908	946	△4.0%	△37
その他	163	156	4.5%	7
化成品事業計	2,495	2,476	0.8%	18

酵素部門につきましては、海外を主な市場としており、海外企業との販売競争が激化するなか、市場での競争力向上を目指し営業体制を強化してきました。その結果、脂肪分解酵素「リパーゼ」は前年同期並みの売上でしたが、チーズ用凝乳酵素「レンネット」は海外市場にて売上が好調に推移したことにより増収となりました。

また、薬品部門につきましては、医療機器原料等で使用される「デキストラン硫酸」が売上を落とし減収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前年同期に比べ0.8%増の2,495百万円となりました。営業利益につきましては、売上原価率の上昇などにより前年同期に比べ17.1%減の512百万円となりました。

不動産事業

不動産事業につきましては、2025年9月に取得した土地の賃貸収入の増加により、売上高は前年同期に比べ29.7%増の270百万円となり、営業利益は前年同期に比べ78.0%増の125百万円となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ16,912百万円増加し、100,238百万円となりました。これは主に、不動産事業等にて土地を取得したことや、投資有価証券が保有する株式の株価の上昇により増加したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ、10,565百万円増加し、38,977百万円となりました。これは主に、短期借入金や長期借入金が不動産事業にて取得した土地の支払い等により増加したことや、繰延税金負債が保有する株式の株価の上昇により増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ6,347百万円増加し、61,260百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金や利益剰余金が増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は、61.1%（前連結会計年度末65.9%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、当第3四半期連結累計期間の業績は順調に推移したものの、2025年9月1日より「株式会社meito」に商号変更することを記念したキャンペーンの実施による一時的な費用の発生を見込んでおります。現時点では通期の連結業績予想につきまして、2025年9月10日に公表いたしました数値を修正しておりません。今後、経営環境等の変化により、見直しの必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

また、配当予想につきましては、本日（2026年2月9日）発表の「配当予想および中期経営計画の配当金に関する経営指標（KPI）の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,194	4,500
受取手形及び売掛金	5,546	7,283
商品及び製品	1,915	2,254
仕掛品	785	811
原材料及び貯蔵品	1,785	3,472
その他	203	667
貸倒引当金	△35	△12
流動資産合計	17,395	18,977
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,523	9,331
機械装置及び運搬具（純額）	4,850	5,391
土地	3,863	11,432
その他（純額）	2,011	2,149
有形固定資産合計	20,249	28,304
無形固定資産		
商標権	1,447	1,379
のれん	460	425
その他	149	129
無形固定資産合計	2,057	1,934
投資その他の資産		
投資有価証券	43,064	50,482
その他	586	593
貸倒引当金	△28	△54
投資その他の資産合計	43,621	51,021
固定資産合計	65,929	81,260
資産合計	83,325	100,238

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,882	3,650
短期借入金	—	2,060
1年内返済予定の長期借入金	796	1,320
未払法人税等	1,346	2
その他	3,812	4,211
流動負債合計	8,838	11,244
固定負債		
長期借入金	8,342	13,524
繰延税金負債	8,410	11,096
役員退職慰労引当金	13	46
退職給付に係る負債	2,435	2,553
その他	371	511
固定負債合計	19,574	27,733
負債合計	28,412	38,977
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,335	1,335
資本剰余金	98	99
利益剰余金	31,965	34,244
自己株式	△689	△1,862
株主資本合計	32,709	33,817
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,004	27,393
退職給付に係る調整累計額	197	49
その他の包括利益累計額合計	22,202	27,442
純資産合計	54,912	61,260
負債純資産合計	83,325	100,238

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位: 百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	21,299	22,126
売上原価	15,010	15,382
売上総利益	6,288	6,744
販売費及び一般管理費		
販売促進費	213	282
運送費及び保管費	1,634	1,613
給料手当及び賞与	1,482	1,662
退職給付費用	31	△32
役員退職慰労引当金繰入額	4	2
貸倒引当金繰入額	25	0
減価償却費	114	185
その他	1,528	1,757
販売費及び一般管理費合計	5,034	5,471
営業利益	1,253	1,272
営業外収益		
受取利息	1	4
受取配当金	1,111	1,370
投資有価証券売却益	1	187
持分法による投資利益	40	43
企業立地奨励金	140	—
その他	42	47
営業外収益合計	1,337	1,653
営業外費用		
支払利息	37	73
固定資産除売却損	43	61
その他	4	22
営業外費用合計	85	157
経常利益	2,506	2,767
特別利益		
投資有価証券売却益	3,363	1,449
固定資産売却益	342	—
固定資産撤去費用引当金戻入益	—	4
特別利益合計	3,706	1,454
特別損失		
投資有価証券評価損	—	8
80周年記念事業費	—	94
特別損失合計	—	102
税金等調整前四半期純利益	6,212	4,119
法人税、住民税及び事業税	1,605	794
法人税等調整額	176	402
法人税等合計	1,781	1,197
四半期純利益	4,430	2,922
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,430	2,922

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	4,430	2,922
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	987	5,388
退職給付に係る調整額	△56	△148
その他の包括利益合計	931	5,240
四半期包括利益	5,362	8,162
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,362	8,162

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社および連結子会社の有形固定資産の減価償却方法については、従来、「運搬具」および「工具、器具及び備品」は定率法を採用し、「機械装置」は一部の連結子会社において定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

当社および連結子会社は、新工場の建設計画の策定を契機に、有形固定資産の減価償却方法を検討した結果、今後は長期的に安定的な稼働が見込まれることから、取得価額を使用可能期間にわたり均等に費用配分する定額法が、有形固定資産の使用実態をより適切に反映させることができると判断いたしました。

この変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益は、それぞれ75百万円増加しております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	18,613	2,476	208	21,299	—	21,299
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	18,613	2,476	208	21,299	—	21,299
セグメント利益	1,325	618	70	2,014	△760	1,253

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	19,361	2,495	270	22,126	—	22,126
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	19,361	2,495	270	22,126	—	22,126
セグメント利益	1,718	512	125	2,355	△1,083	1,272

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に記載のとおり、当社および連結子会社の有形固定資産の減価償却方法については、従来、「運搬具」および「工具、器具及び備品」は定率法を採用し、「機械装置」は一部の連結子会社において定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この変更により、従来の方と比べて、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が「食品事業」で59百万円、「化成品事業」で11百万円、「不動産事業」で0百万円それぞれ増加しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	1,373百万円	1,481百万円
のれんの償却額	34百万円	35百万円